

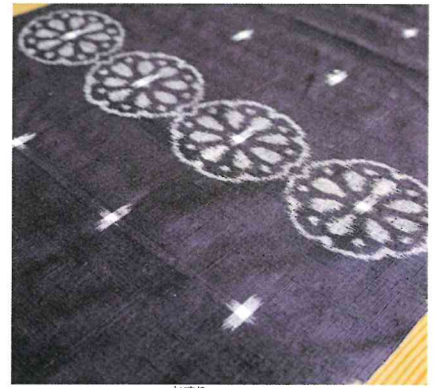


長井紬の魅力に迫る！

～2件の織元は致芳の宝～

長井市の伝統産業である「長井紬」はかつて、長井市を代表する産業の1つとして一世を風靡しました。着物離れによって需要が減り、織元は次々と姿を消しました。現在、市内で営業するのはわずか3軒。そのうち2軒が致芳地区に現存します。

当館では、「長井紬」の魅力を次世代に繋ぐため、様々な活動に着手しました。



長井紬は「^{かすり}紬」の技法が特徴



タペストリー作りに挑戦！



多彩な長井紬！宝の山です♪



思い思いの作品が完成！



ミシンも使いながら♪

成田の渡源織物さんに「長井紬」の端切れ布をご提供いただき、全4回の手芸教室を行いました。講師に黒澤和子氏（白鷹高等専修学校講師）をお招きし、第1シリーズの8月18・25日はタペストリーを、第2シリーズの10月20・27日は吾妻袋（あづまぶくろ）を作り、地区内外より毎回10名〜15名の方に参加していただきました。色とりどりの「長井紬」をたっぷり使用した思い思いの作品は、文化祭にも出展いただき、「長井紬」の魅力を存分に感じられるものとなりました。受講者からは、「長井紬を使った小物を作れるのは最高の贅沢。」「長井紬を使って色んなものを作ってみよう」といった声が多数寄せられました。皆様からの要望を受け、今後も継続的に開催したいと考えております。

「長井紬」を使った手芸教室



渡源さんより「かすり」の技法を学ぶ



長岡さんより「ちぢみ」の技法を学ぶ

現在、「長井紬」の知名度アップや新たな販路開拓と利活用方法を探るため、山形大学人文社会科学部の学生7人がフィールドワークを実施しています。11月18、19日と渡源織物（成田）と長岡織物工房（西五十川）を訪れ、「長井紬」の製造工程や販売形態の聞き取りを行いました。今後は調査した結果をまとめ、学生たちから何らかの提案がなされます。当館を拠点とした活動方法などご提案いただくと幸いです。次回の館報で特集させていただきます。

山大学生も研究しています！

10月3日、致芳小学校5学年部会の事業の一環で、「長井紬」を使った「コースター」作りを実施しました。子ども達の中には、「初めて長井紬を見た」という子もおりました。親子で試行錯誤しながら手縫いとミシンを使用して何とか2時間で仕上げる事ができました。今後も、子ども達を対象としたワークショップなども開催したいと思っております。

致芳小5学年親子も体験！



お父さん方も大奮闘！



作品を並べてみるとキレイ♪